



# 名古屋市立大学開学50周年を迎える



記念式典



松尾葉子氏指揮による演奏



記念講演 松沢教授(左)和田学長(右)



祝賀会場にて

名古屋市立大学が創設されて、今年で50年の節目を迎えることになり、これを記念する式典、祝賀会、講演会が創立記念日の10月28日に開かれた。

午前11時より名古屋国際会議場センチュリーホールにおいて行われた式典には、名古屋市長、文部大臣代理、公立大学協会会長(都立大学学長)他の招待者、学内から多数の教員、事務職、学生・院生代表が出席した。式典では松尾葉子指揮による名市大オーケストラの記念演奏、50年の歴史を振り返るビデオ「飛翔」の上映も行われ、場内を盛り上げた。その後、会場を4階レセプションホールに換えて祝賀会が盛大に行われた。この式典・祝賀会への出席者数は、来賓を含めて計381名にのぼった。午後からは、会場を名古屋市中区役所ホールに移して、京大霊長類研究所の松沢哲郎教授による「チンパンジーの心」と題した記念講演が行われ、一般参加者209名を含む400名の参加者が講演と、和田学長も加わった鼎談(ていだん)に聞き入った。

振り返ると名市大は、発足当時の2学部体制(医学、薬学)から、この50年間に4学部1センター(経済、人文社会、芸術工学、看護、自然科学研究教育センター)を加えて、今では6学部1センターの体制に発展している。現在の教員数は計535名、事務職員102名(病院を除く)、技術職員60名(病院を除く)、学部学生数2,852名、大学院生443名である。名市大が21世紀においても、研究教育両面において有能な人材を育成し、地域発展に貢献していくように願ってやまない。

松村 文人(経済学部教授/50周年記念式典実行委員会委員)

# 平成12年度通常総会 開催される



さる8月26日(土)、名古屋市中区東京第一ホテル錦にて平成12年度通常総会が開催されました。報告事項では、平成11年度活動報告、年次別会費納入状況、物故者名簿、平成12年度事業計画、平成11年度決算および平成12年度予算案、新役員名簿があり、質疑応答の後、承認されました。

## ●平成11年度決算報告

### 第22期 貸借対照表

(平成12年3月31日現在) (単位 円)

借方	金額	貸方	金額
普通預金・現金	4,196,372	未払費用	38,344
中国ファンド	5,942,859	市立大学50周年記念引当金	300,000
貸付信託	6,560,000	運営基金積立金	18,322,118
金銭信託	1,961,231	(うち当期積立金)	(1,521,321)
合計	18,660,462	合計	18,660,462

### 第22期 収支計算書

(自 平成11年4月1日 至 平成12年3月31日)

(収入の部) (単位 円)

勘定科目	予算額(A)	実績額(B)	差額(B)-(A)
会費収入 (新入会費)	4,220,000	4,240,000	20,000
各部預金利息	5,000	2,052	△2,948
運営基金利息	70,000	36,904	△33,096
名簿売上	0	4,000	4,000
収入計	4,295,000	4,282,956	△12,044

(支出の部) (単位 円)

勘定科目	予算額(A)	実績額(B)	差額(B)-(A)
名簿追録発行費	50,000	19,139	△30,861
会報発行費	1,500,000	1,331,011	△168,989
総会費	500,000	195,486	△304,514
事務費	300,000	253,223	△46,777
通信費	100,000	54,755	△45,245
事業運営費	1,000,000	608,021	△391,979
市立大学50周年記念積立金	300,000	300,000	0
予備費	545,000	0	△545,000
支出計	4,295,000	2,761,635	△1,533,365
当期剰余金	0	1,521,321	1,521,321
合計	4,295,000	4,282,956	12,044

## ●平成12年度予算案

### 第23期 収支計算書

(自 平成12年4月1日 至 平成13年3月31日)

(収入の部) (単位 円)

勘定科目	予算額(A)	前年実績額(B)	差額(B)-(A)
会費収入 (新入会費)	4,000,000	4,240,000	△240,000
各部預金利息	5,000	2,052	2,948
運営基金利息	50,000	36,904	13,096
名簿売上	0	4,000	△4,000
収入計	4,055,000	4,282,956	△227,956

(注) 新入会費は入金未確認

(支出の部) (単位 円)

勘定科目	予算額(A)	前年実績額(B)	差額(B)-(A)
(注1) 名簿追録発行費	50,000	19,139	△30,861
(注2) 会報発行費	1,500,000	1,331,011	△168,989
総会費	500,000	195,486	△304,514
事務費	300,000	253,223	△46,777
(注3) 通信費	200,000	54,755	△145,245
(注4) 事業運営費	950,000	608,021	△341,979
(注5) 市立大学50周年記念積立金	150,000	300,000	150,000
(注6) 日中学術交流	100,000	0	△100,000
予備費	305,000	0	△305,000
当期剰余金	0	1,521,321	1,521,321
支出計	4,055,000	4,282,956	227,956

(注1) 新卒業生に対する名簿追録発行費用

(注2) 会報2回発行費用

(注3) 市大広報発送費用を含む

(注4) 新支部補助金、OB表彰制度等

(注5) 50周年記念事業に対する寄付金、及び一般寄付金募集費用

(注6) 日中学術交流に対する寄付金等(平成13年3月に名古屋で開催予定)

## 2000年度役員名簿

### 理事

- |  |  |   |  |
|--|--|---|--|
| ●会長<br>前田 勝昭 1期生(岡崎)   | 木村 剛 17期生(辻)<br>吉田 和男 20期生(國村)   | 柴田 光晴 22期生(神山)<br>家田 嘉人 26期生(星野)  | 村岡 範久 15期生(松井)<br>畔柳 一 19期生(星野)            |
| ●副会長<br>八木 得三 5期生(山本)<br>多和田 眞 4期生(岡崎)<br>佐藤 克己 8期生(岡崎)                                    | ●編集部長<br>榊原 茂 1期生(松永)  | 高山 浩之 26期生(國村)<br>西 理恵 26期生(國村)   | 石川 常彦 23期生(國村)                             |
| ●庶務部長<br>伊藤 孝 6期生(山本)  | ●副編集部長<br>服部 篤典 18期生(安藤)   | 清水 綾子 30期生(多和田)<br>柚田 明子 30期生(安藤)   | ●名簿部長<br>中村 正治 5期生(木村)                     |
| ●副庶務部長<br>渡辺 尚泰 3期生(柴田)  | ●庶務部<br>伊藤 幸雄 5期生(妙見)<br>鈴木 正彦 7期生(芝原)<br>田中 喜夫 7期生(岡崎)<br>寺沢 賢治 11期生(牛嶋)<br>水野 誠 13期生(宮川)<br>松川 倫典 16期生(塩見)<br>湯浅 伸庸 18期生(安藤)<br>中村 英利 20期生(西田)<br>石川 勇治 21期生(上村) | ●事業部長<br>逸見 和弘 1期生(松永)  | ●副名簿部長<br>児島 完二 22期生(妙見)<br>橋本 光生 18期生(醍醐) |
| ●庶務部<br>浅井 和良 1期生(静岡)<br>近藤 常夫 1期生(平田)<br>小笠原幸生 6期生(中居)<br>荒深美和子 9期生(木村)<br>倉地 弘美 14期生(松永) |  | ●副事業部長<br>杉浦 晴義 5期生(松永)   | ●会計部長<br>坂野 修 2期生(山本)                      |
|  |  | ●事業部<br>都島忠比古 3期生(山本)<br>浅岡 邦康 3期生(傍島)<br>木村 新作 5期生(岩橋)<br>岡田美津雄 10期生(中居) | ●副会計部長<br>児島 和世 22期生(國村)                   |
|  |  |   | 監事<br>栗野 泰次 1期生(大山)<br>松原 隆二 4期生(中居)       |

## 第4回日中経済学術交流会議 名古屋会議開催される

この秋、10月12、13日の2日間にわたり第4回日中経済学術交流会議が名古屋にて開催されました。

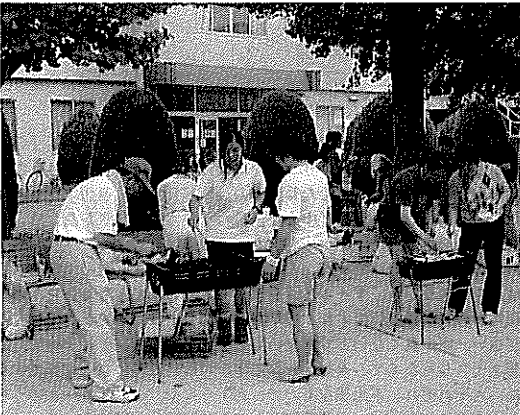
今回の会議には、共同で主催する中国社会科学院日本研究所以外からも、中国国务院発展研究中心、天津亜太発展研究中心、武漢市江漢大学から参加があり、中国参加者は12名となりました。日本側報告者の一人として、瑞山会会長前田勝昭氏にもご報告をお願いしました。会議の主要なテーマは、21世紀における日中経済協力の在り方をめぐってというものでした。中国はこれから西部大開発に取り組むこととなりますが、このプロジェクトのために日本からの経済協力が不可欠となるでしょう。

なお、中国社会科学院日本研究所との学術交流協定の更新については現在検討中です。

(日中共同シンポジウム実施委員会 委員長 安藤金男)



## ＜事業部便り＞



昨年に引き続き、経済学部キャンパス内にてバーベキューパーティーが9月3日に行われました。快晴で汗ばむばかりの陽気の中、楽しい一時を過ごすことができました。恒例のうなぎの蒲焼が大好評で、ビールのつまみにうなぎ井にと大賑わいでした。安藤先生も偶然とおりがかって参加され、卒業したゼミ生と歓談される一幕もありました。今回参加されなかった皆様も来年は友人とまたご家族とご一緒にご参加ください。

10月21日には第36回OBゴルフコンペが多度CCにて行われました。天候にも恵まれ激しいデッドヒートが展開されました。結果優勝の栄冠を手にしたのは、林嘉明氏(3期生)で準優勝は倉地弘美氏(14期生)の方々でした。次回は来年4月14日、三重県の伊勢大鷲ゴルフ場を予定しています。

また2001年4月1日(日)には山崎川花見散策と茶会を開催します。例によってお茶のほか、ジュースやビールなども用意していますのでご家族やお友達をお誘いの上お気軽にお出かけください。久しぶりに見る山崎川の桜も良いものだと思います。

5月3日(祝)には第12回硬式テニスの会を開催する予定です。今までに参加された方々には別途ご案内しますが、初参加となる方は事業部あてにお問い合わせ下さい。

(事業部長 逸見和弘 TEL 052-914-6221 E-mail hem3@mvi.biglobe.ne.jp)

## 「就職のための学生とOB・OGとの交流会」開催

毎年恒例になりました「OB・OGとの交流会(経済学部ゼミ協主催)」が今年も11月10日(金)に開催されました。

この企画は、就職活動を間近に控えた3年生の皆さんに、社会で活躍する先輩方と懇談する機会を提供し、就職活動の応援ができればという企画です。当日は午後から大学事務主催のガイダンスが行われ、引き続き夕方より学生会館和室での交流会開催でした。景気の先行きに明るさも見え始め大卒採用予定数もIT関係を中心に増加に転ずるなど、少しずつ環境は明るくなっているものの、依然として来年も厳しい就職戦線が予想されます。しかし、就職指導は他の私大と比較すると不十分な部分もあり、就職に対する意識も低いのが現状で、自ら主体的に参加した学生は若干少な目でしたが、終わり頃には、参加してよかったという声が多数聞かれました。先輩方は、業務多忙の折りにもかかわらず、メーカー・商社・流通・サービスなど多職種にわたってお集まりいただき、学生諸君からの質問に、的確なアドバイスで応えていただき、非常に活気にあふれた交流会になりました。長期にわたる活動になりますが、この経験をいかしての頑張りに期待したいと思います。次回開催の折りにも多方面にわたる業種、職種の皆様のご参加をいただければと思います。

(20期生 中村英利)

新しい時代を創る人と人をつなぐ

## ネオ・キャリア・ネットワーク Vol.9

大和田芳朗[大和田獏]さん[第7期(1974年卒)根津ゼミ]俳優

大和田【●】1950年、福井県の敦賀で、4人兄弟の末っ子として生まれました。高校2年の時に名古屋へ来て、菊里高校から名市大へ。7年間は名古屋でした。今でも母や一番上の兄が名古屋にいますので、「里帰り」と言うのが名古屋ですね。大学に入って、すぐに演劇同好会に入りました。「劇団のろ」って名づけたのは僕なんです。今でもありますか？「のろま」が語源です。大学1年の時に、大学祭実行委員の熱心な先輩がいて、「状況劇場」の唐十郎による2日間の公演と、当時、つのだひろと組んでいたアルトサックスの渡辺貞夫のコンサートをやったんですね。教養棟の前の中庭とかで、ステージ組んだり、赤テント立ててやったから、かなり近所からクレームありました。唐十郎の方で、「役者が足りないから演劇部から出せ」ってことになって、僕が手を上げたり。当時、唐十郎の奥さんと、今も親しくお付き合いいただいている李麗仙さんと、チョイ役で共演したわけです。大鶴義丹さんのお母さんですね。とにかく大学1年目、こうした出来事、出会いに、すごく影響を受けました。旧制八高のパンカラな雰囲気も残っていて、古墳の横には、古くてノミのいそうなボロボロの合宿所があったんですが、公演の時には、唐十郎の劇団員もそこに宿泊まりして、学生食堂で食べてもらってました。根津基八が新人として、「公演の途中で拾って来ました」なんて紹介されました。

編集部【□】ははは。すごい時代ですね。唐十郎とナベサダを、東京から名市大に呼んじやったんですね。学生時代が、70年、大阪万博の年。文化的にも、社会的にもエネルギーだった、いい時代でしたよね。

●あのころは、ちょうど大学紛争とか一段落したところで、名市大にも、70年代的な文化の香りがあったんです。皆が燃えてたんですね。唐十郎やナベサダを呼んだのも、自分たちが、こういう文化に触れたい、この人に会いたい、っていう想いからだけでしたね。2年目、今度は、自分らで芝居小屋立てようということに。大学祭の実行委員やってた友人に頼んで、11月の学園祭で、「創造空間芝居小屋」の企画を遂げました。でも、何も無いスタート。たまたま先輩がアルバイトしていた太陽テントという会社から、見本のテントを借りることができたものの、今度は支柱が無い。苦肉の策、「あれだ」って、グラウンドのサッカーゴールを2つ運んで、テントかぶせましたね。畳屋から古畳もらって敷いて、照明つけて、芝居小屋を作り上げて、4日間公演をしたんですよ。僕が作った芝居もやりましたし、矢野と言う、今でも名古屋でアングラ演劇やっている男の芝居や、名工大、南山大はじめ、他の大学の演劇部、落語研究会のメンバーなども呼びました。本番の3日前、雨でテントに水がたまってパシヤンと倒れて、1日で戻したり、テントが破れて叱られたりとか大変でした。3年の時には、「のろ」を離れ、数人で学外活動も含む「総合企画」というグループを創り、芝居をやってみたり、他大学のイベントを手伝ったりとかしましたね。11月の大学祭の企画として、6月に、大学祭を企画したのも僕たちです。当時「水無月祭」と名づけました。今でも、やっていますか？

□「水無月祭」は、残念ながら3年くらい前になくなりました。「劇団のろ」は、今も現役ですね。名前、そのままに。大学祭のイベントというのは、僕らのころは、有名人を呼ぶと、プロモーション会社と契約して、チケットさばいたり、ビジネス的に大変でしたね。

●「のろ」は、今でも、がんばってますか。うれしいなあ。大学祭の方は、僕たちが卒業したころから、プロのイベント屋と組んだりして、興行的、ビジネスライクな感じが強まりましたね。そんなことは、卒業してからやればいいのに。僕らは、純粋に、会いたい。触れたい。そんな動機が、唯一のエネルギーでしたからね。

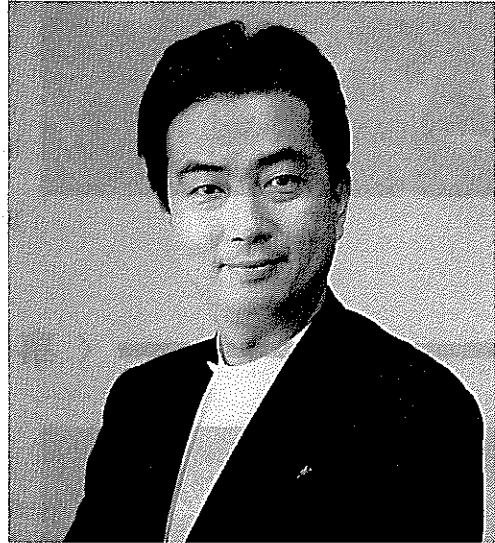
□それにしても、経済学部を出られて役者、芸能人への道ということですよ。

●僕の兄が、先に役者になっていた影響も大きいですが、やはり、僕自身の体験が大きいです。よく言われるんです。お前は名市大の経済学部を出たんじゃなくて演劇部卒だろうって。ばんばんの「イチゴ白書をもう一度」ってフォークソング知ってますか？みんなあのころはロングヘアだった。それで、喫茶店や下宿で、文化人気取りで、演劇や音楽や文化を語った。4年生になると、みんなリクルートカットだって、髪を切るんですね。最後まで長かったのが僕でした。就職活動もろくにせずに、テレビ局を受験して、落ちた。でも丁度いいタイミングで、出入りしていたCBCのプロデューサーの紹介で、ドラマで役者をやらなかって誘ってもらい、4年生の7月にテレビ出演しました。で、いよいよ就職も決まらないう、どうしようかって時に、「じゃあ役者をやらなさいよ」って、言われちゃって。簡単に言われてもね、兄の苦勞見てるし。でも、自分に聞いてみたら、やっぱり、役者が好きだと。で、決意。たむらプロに所属し、今まで、活動してきました。

4年生の8月から卒業までの半年間は、テレビ出演で、東京と名古屋を往復する生活。どうしても卒業だけはしたかったから、週に1回、深夜バスで、八重洲口を出て、翌早朝、名古屋駅に着くんです。友達の家で仮眠をとって、ゼミに出ました。今でも覚えています。東京との往復で、ついついゼミ中に居眠りしてたら友達が起こそうとした時に、根津先生が「疲れてるんだから寝かしとけ」って言われたらしいです。

□仕事を始めになってからは、どんな展開だったんですか？

●恵まれてたスタート。プロダクションの用意してくれた仕事も順調だったんです。ただ、デビュー2年目、番組のワンクールが終わりそうな時期、「次は、どんな仕



事かなあ」と調子に乗って言った言葉に、社長が危機感を持ったんですね。「いつも仕事があると思うのは間違いだ」ということで、教育的に半年くらい干されたんです。この体験が一つの基礎になりましたね。その後、NHKの「理想ゲーム」のレギュラーを12年間やりました。テレビ中心で、舞台や映画もありました。で、あつと言う間の27年なんですよ。

□こうして初めてお会いするわけですが、大和田さんというのは、僕が小学校、中学校時代にごはんを食べながら、ずーっと「理想ゲーム」で見えてきたおなじみの顔なんですね。初対面の気がしないですね。12年だったんですね。知的なお見さんというイメージが強い。頭が良くないといけないでしょう。12年もレギュラーで。

●まさに、理想クイズじゃなくて、理想ゲームですからね。正解のない世界ですから。イメージは、人それぞれ。不思議なもので、あ・うんや、ツー・カーという呼吸とか波長とかいうものがあるって、加藤芳郎さんや、共演者との掛け合いで、イメージもひろがったりとかするもんですよ。場のムードで、「第一ヒントから、いい答を思いついちゃった」なんてこと、たびたびありましたもの。

□「理想ゲーム」は、お茶の間のいい時間帯に、老若男女、おばあちゃんから、小さな子供まで、家族揃って見えますよね。幅広い層に、優等生の大和田さんのイメージが定着したでしょう。12年半ですから、イメージが焼きつくはずですね。

●そうかもしれませんね。お子さんからおばあちゃんまで、幅広くファンを得る事が出来たと思います。どちらかというと年配の方に好かれたのかな。視聴率も高かったですね。30%ぐらいでしょうか。

□理想するって事が、演劇や役作りとかにも関係するもんなんですか？

●確かに、芝居も想像力が必要で、理想と関係しますね。自分ではないものを演じるということですね。台本に、すべてが書いてあるわけじゃないですから、どうしても自分のイメージで、その間を詰めていく、理想する必要があります。台本の状況、セリフ、物語、ト書きなどから、その人物の性格やしぐさを表現、理想するわけですね。

□イメージ・トレーニングは、日常的にされているんですか？

●常に意識はしていませんが、どうしても、役者の目で見えてしまう時ありますね。したこともない新しい役作りに集中している時には、マンウォッチングしてますね。喫茶店に入った時とか、電車にのった時に、男の人が吊革につかまった。ああ疲れた表情をしてる。どうしてだろうと、その人の表情から、背後にあるドラマを想像しちゃうってしてるんです。じっと観察とか、想像とかしている、目の前のガールフレンドに、「私の話、聞いてるの。どこ見てるのよ」なんて怒られたりして。ははは。で、役作りは逆ですね。台本に書かれている情報は、すべてではないですが、そこから理想して、今度は、観客の目に見える表情に表現していくわけですね。たとえば「涙を流す」という情報も、忍び泣いているのか、号泣しているのか、たった1つの正解はないけれど、複数の表情をイメージできた方が、より豊かな表現ができますからね。

□複数の人の型を持つ必要があるわけですね。転写して、どんどん取りこんでいく。

●そう。だから、ついつい他人の芝居や、映画を観たりすると、「あれ使えるな」って思ったりしてる。映画に没入できないから、つまらない見方しているなって思いますよ。極端な話、誰か親しい人が亡くなった時、悲しくて泣きますよね。そんな時にも、もう一人の冷静な自分が、泣いている自分を見ているんですね。それで

も、自分の子どもが産まれた時には、本当に強硬で、自分が今まで何回も芝居でやっているシーンなのに、はるかにその想像を超えて、喜びも大きかったし、妙な行動をとっている自分に驚いたり、笑いましたね。

□いろいろな役をされていくと思います。大和田さんと言うと、やはり、誠実なお兄さんというイメージが強い。汚れ役とか、悪役もやられていますか？

●それはもう、いろいろやりました。ワルもやりましたよ。何人か人、殺していますね。麻薬の売人もやりました。最後は、殺されちゃったかな。外見が誠実なだけ、最後の最後に、どんでん返しのワルとして、配役されたりね。

□ははは。それはおもしろいですね。騙されるだろうな。見ている人のほとんどは。

●汚れ役というか、撮影で、一番すごかったのは、雨降る公園の水溜まりに、仰向きに倒れ込んで死ぬシーンでした。目を開けたまま死ぬんですけど、雨が目に入れば、生理現象で、ついパチパチしますよね。「目を動かすな」って監督に怒られたんですが、「これは生理反応ですから無理ですーっ」って訴えたら、「そうだよな」って許してもらったり。「岸壁の母」の時は、息子の役で、ゲートルに軍靴を履いて、足を踏まれて泥水に飛び込んで、そのまま5m潜ったら、浮いていいよっていうシーンなんですけど、すぐに浮かないように、沈んだまま必死でしたよ。そういう意味で、危ない目にあったり、肉体労働だったり。それが、おもしろいって言えば、おもしろい仕事なんですけどね。

□普段は、どんな生活スタイルなんですか。

●今は、割と規則正しい生活を送ってます。月曜から金曜の11:30~13:05は、テレビ朝日の「ワイドスクランブル」という生番組の司会をやっていますので、6:30に起きて、犬に餌やって、新聞読んで、8:30に家を出て、打ち合わせをやってお昼の番組をして、その後、反省会をやった、その後、TBSの「渡る世間は鬼ばかり」[木曜21:00~]の収録があることもあります。休日はスポーツクラブで泳いだりトレーニングしたり。真面目に、規則正しく、生活していますね。テレビドラマとか映画がメインになると、早朝から深夜と、俄然、不規則になりますね。「26時30分終了予定」と書いたスケジュール表、見たことありますか？ 僕らの業界だけのものかもしれませんね。

□大和田さんは、イメージ的にも、パーソナリティーとして、全体の場をまとめる雰囲気をもっていらっしゃるんですね。そこにいるだけで、安心感があります。司会とか、調整役を期待されることが多いでしょう。

●そうですね。確かに「しきり屋」と言われますね。もともと、ディレクター志望でしたからね。演劇部、大学祭の時代から、そう「しきる」のは好きでしたね。でも、勉強でできることは無かったなあ。いつも部屋か、喫茶店にいましたからね。

□舞台とテレビとは違いますか？

●そうですね。目の前にお客さんが見えていて、同じ空気を吸っている感覚と、レンズの向こうに、何万人が見ているという感覚は違いますね。それとテレビは、アップしてくれるので、目を動かすだけで表現できますが、舞台は、全身で表現しないと、喜怒哀楽が伝わらないですね。表現方法の文法が違います。

□大学時代の交友関係は、続いていますか？

●続いていますね。会えないですけどね。でも、気持ちの中で、熱くあるわけですよ。大学祭実行委員だった医学部の加藤君。学生時代から、無医村で働くために医者を目指すと言った男です。薬学部の女の子と学生結婚して、岐阜の山村や、北海道の宗谷岬の無医村で医者やっていますね。他にも、ニューヨークの日本の証券会社で働いてる男とか、先生とか、東京で、作詞・作曲やっていて、レコード出した男は、今、蒲郡で薬剤師のオヤジ兼バンドで稼いでいるらしいです。みんな、今では、ほとんど会わないけれど、何か熱いもので繋がって、いまだに大学時代の友達ってのが心の中に生きています。

□学部とか、クラブとかを超えていますね。

●そうですね。演劇部の隣の軽音楽部、学部を超えた大学祭実行委員の仲間。他大学の友人。いい友情を育むことができ、利害や損得を超えて、自分の好きなことに夢中になった、本当にいい4年間を過ごせたと思いますね。

□70年代という時代は、学生にとってどんな時代でしたか？

●70年安保とか、学園紛争とかが叫ばれていて、学生の中から急速に政治色が薄くなっていった時代ですね。その中で、僕らはと言えば、文化とは何か？とか、本当の幸せとは何か？って、本当に真面目に自分の内側を見つめたり、文化、文明というのを考えたり、語り合ったりした時代、世代でしたね。団塊世代の最後の人間ですね。自分で言うのも変ですが、感性も豊かでした。まあ、喫茶店で「少年マガジン」とか読んでいましたけど。残った学生運動の一部は、内ゲバや無差別テロなど、過激化し多くの事件を起こしました。最近、重信房子が捕まりましたが、若い人は、彼女が誰なのかわからないでしょう。

□あのVサインおぼさん、ちょっと変って感じですかね。

●僕らは、「大学は、浮世離れた温室でもいい。人間同士の利害や損得を超えた場でありたい」と考えていました。当時は、現実でも、ドラマでも、こうした理想と現実を巡る葛藤の物語が多かった。「青春」がドラマの主題になれた時代。今は、競争、就職難、リストラなど、先が見えないという不安を、個人で抱え過ぎる傾向が強いですね。孤独と不安が重なって、損得や合理性の基準で、自分の足元ばかり見てしまいがちです。学生時代から、社会との接点を考えすぎる若い人が多いのは、残念だし、もったいないことです。もう少し、破天荒に構えてもいいのに。あのころの学生は、本当に熱かったですよ。大学祭も夜遅くまで、えんえんと熱かった。テントのいろいろで議論したりしました。大学祭実行委員会の諏訪調での準備合宿でも、「何をすべきか？」とか、「なぜやるのか？」とか文化とは？文明とは？人間とは？今考えると「青い」けど、ほんとに熱い思いが飛び交っていた。演劇で議論別れた後輩が、公演の後、キャンプファイヤーの火を囲んでいる僕のところへ、一升瓶もってやって来た。泣いてるんで、「どうした？」と声をかけると、「大和田さん、すいませんでした。僕ら、さっき、大和田さんの芝居に賭ける情熱を理解できませんでした。今わかりました」と。こっちも大泣きで、一緒に酒を酌み交わす。

キャンプファイヤーの前でね。これが日常でした。

□損得で動く人。熱く語れる人。今でも、そういう人の間の軌跡や、同じ人の心の中の、こうした2つの面の葛藤で、結構、問題になりますね。ここ最近、熱く語る人の活躍が、目立ってきましたよね。

●どちらが良いとか、悪いとかという問題じゃないですけどね。どちらかという、芸術とか文化は、保守的なところからは生まれません。今の若い人も、私的に、小さくても、いいものを生み出そうとしていますよね。いろいろな方法がある。たった1つのルールブックなどない。あまりに、損得や合理性に流れ、したいことを押さえたり、我慢しちゃうと、人間として息苦しい、つまらない社会になるような気がします。また、便利になりすぎても人間は駄目になると思いますね。例えば、携帯電話は、すぐに繋がると、相手の人に対する思いが、すっと消えていって。少し前なら、連絡したいと思ったときに、公衆電話を探したり、彼と繋がるまでの間に、その人への思いが強くなりますよね。そこへ行くまでに、会いたいという思いが募り、今、どんな思いでいるのか、何をしているのか、想像力も広がりますよね。インターネットもいけれど、本当にインターネットのメッセージって、届いているの？って思いがありますね。面と向かって思いを伝えるのは、勇気がいるしパワーもいる。そういうストレスこそ、若いうちにどんな体験するといいのに。

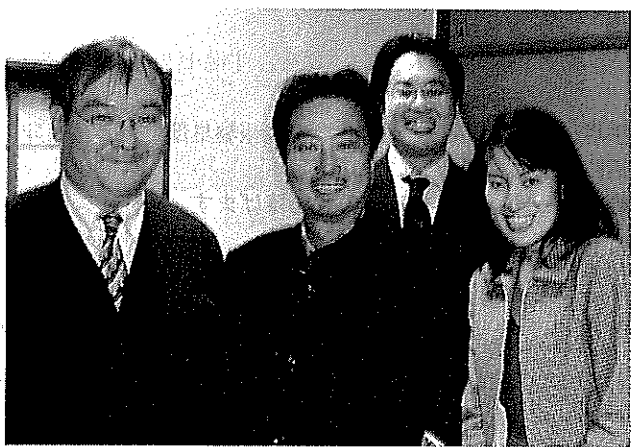
□今後、どんな役者を、目指していられるのでしょうか？

●難しい質問ですね。基本はエンターテインメントですから、自分が表現した事を見ていただいたお客さんが、いかに喜んでもらえるか、感じてもらえるかということですね。ドラマを見て、それぞれの方が、それぞれの中に持っている喜怒哀楽の思いをふつふつと喚起してくれる。そんな演技ができれば、役者にとって、それは何よりの喜びです。最終的には、どんな状況でも、そういう場を作る役者になりたいですね。僕も確実に歳をとりますね。若い時のような表現力や、表現の場は失われるかもしれない。でも、何気ない状況や場所でも、役者の使命を、つまり、誰かの思いをふるわせて、何かを生み出す空間を創り出せたらいいなと思いますね。語りべ、お話おぼさん、お話おぼさんみたいになりたい。一人語りで、こうして、今、皆さんのような3人の聞き手が、「ああ、いい時間を過ごせた」と思えるような役者、人になりたいですね。ちょっと小学校や、合会に呼ばれたら、出かけて行って、一人芝居をする。それがどんな方法、カタチでできるのか、今、模索しています。

□ああ、まさに今が、その時間ですね。僕らにとって、いろいろな思いが喚起される場になっています。初対面でもあるのに、すごく身近に感じます。それと、損得でない基準。大変にお忙しい中、こうしてすぐに快く、お会いする機会をいただいた理由、心の接点が、わかったような気がします。雲の上の人だから、会えないかななんて思ったりもしました。

●同じ人間なんです。そんなわけじゃないじゃないですか。社会に出て、20数年たちますが、まだ学生気分がぬけないのは確かですね。50にもなると、大人のずるさも見えますし、きれいごとだけでは、人生、生きていけない。それもわかります。でも、自分の中で一番熱かったあの4年間が、かけがえのないものとして、今、役者をしてる僕の心の中に生きています。仲間と、朝まで鍋を囲んで、酒を酌み交わし熱く語り合った日々は、単なる思い出ではなく、僕の心の、大切な一部になっているんですよ。

[2000年11月13日東京・六本木の「たむらプロ」オフィスにて取材]



【連絡先】

たむらプロ 〒106-0031 東京都港区西麻布3-1-25-605

E-mail: tamura-pro@pop21.odn.ne.jp

■取材/奥村光輝 [31期] 清水綾子 [30期] 湯浅伸庸 [18期]

■編集/湯浅伸庸 [18期]

ネオキャリアについてのご意見、ご感想などを編集部までお寄せください。またこんなOBの方をインタビューしてほしいなど、ご推薦もよろしく願います。

# 訃報

第1回卒業生(昭和43年卒)の手塚祥郎氏が8月16日亡くなられました。享年57歳でした。



牛嶋先生と故手塚氏(左)

あなたとの出会いは牛嶋ゼミナール以来でしたね。当時のゼミナール室は川澄校舎(現在の市大病院玄関付近)でした。ゼミナールのスタートはマクロ経済学の外書購読、授業時間は土曜日の午後でした。私は苦痛でよくサボタージュしましたが、あなたは真面目に、真剣に取り組んでいましたね。ゼミ生14人の中で中心的存在でした。

東京オリンピック後の不景気と我々経済学部には一人も卒業生はいないという環境のもと、就職活動は非常に厳しかったですね。そんな中、あなたは見事ライオン(株)へ就職されました。

牛嶋先生が還暦祝に財政学に関する本を記念出版されると聞き、あなたは5年計画で牛嶋ゼミ卒業生の名簿を作成されました。あなたの地道な努力が実り、還暦祝賀パーティー(平成3年4月)には150余人のセミ卒業生が名古屋キャッスルに集まり、盛大に行われましたね。先生はもちろんのこと卒業生一人一人が旧交を暖めあい、あなたに感謝したことと思います。また、あなたは瑞山会の役員も引き受けられ、経済学部30周年行事には多大なご尽力をなさったと聞いております。

家庭では良き奥様、二男、一女に恵まれ、最近生まれ育った港区入船に引っ越しされたと聞いておりましたのにさぞ残念で悔しかったことと思います。

本当に長い間いろいろと有難うございました。安らかにお眠りください。そして今後は残されたご家族のご健康とご多幸を見守ってあげてください。

(1期生 牛嶋ゼミ 有滝 巖)

手塚祥郎氏は、平成8年度まで会報編集部長として長年活躍していただいていた。編集部一同、心から哀悼の意を捧げます。

## 経済学部広報紙 第2号発行

名古屋市立大学経済学部より、学部での研究、学内の近況などを広く一般に公開するための「経済学部広報」第2号(9/1付け)が発行されました。会報編集部に若干在庫しております。

ご希望の方は返信用の80円切手を貼って返信先住所を書いた封筒(A4サイズが三つ折りに入る大きさ)を次の宛先までお送り下さい。

宛先

〒452-0914

愛知県西春日井郡新川町大字土器野新田813-1

瑞山会会報編集部 服部 篤典 まで

### 【編集部よりお知らせ】

会報返信葉書に寄せられたご意見の中に、御夫婦とも瑞山会員の方から、「同一住所へ二通会報が送られてくるのは勿体ないので一つになりませんか」というお問い合わせがありました。残念ながらデータを管理、更新し会報発送時に封筒のラベルを出力する中では、そのような管理項目を入れることは難しいのが現況です。ご了承下さるようお願いいたします。また、ゼミOB会開催報告や各瑞山会職域支部の活動報告、また皆さんのエッセイなどございましたら掲載いたしますので、会報編集部までお寄せください。

### <瑞山会ホームページ>

12月10日で開設満2年がたちました。現在アクセス数は1300を越え、11月にはYahooJapanにも検索登録されました。3年めに入り、新しいコンテンツを企画中です。また掲示板の利用もお待ちしています。

瑞山会ホームページ委員会 服部 篤典  
e-mail: atstique@rr.ij4u.or.jp

## 瑞山会年間行事予定(平成13年)

4月1日(日)	山崎川花見と茶会	その他
14日(土)	OBゴルフコンペ(伊勢大鷲CC)	8月 通常総会(兼代議員会)
5月3日(祝日)	テニス大会(硬式)(山の畑キャンパスにて)	年間3~4回 理事会
9月2日(日)	野外パーベキューの集い(山の畑キャンパスにて)	年2回(7月・12月)瑞山会報発行
10月中旬(土又は日)	OBゴルフコンペ	

【行事の日程等は変更することがありますのでその都度ご確認ください】